



心にやすらぎを

～絵本の世界を楽しもう～



「絵本」は子どもが読む本だと考えている人は多いと思います。しかし、深く味わいのある作品は、大人の心や人生さえも豊かにしてくれます。そして、大人と子どもが絵本の世界と一緒に共有することで、心と心が深く結びつき、本の世界を共感できる喜びを味わうことができます。絵本は、不思議な魔法の力を持っているのではないのでしょうか。

今、家族と一緒に絵本の世界を楽しんでみてください。みなさんにぜひ読んでいただきたい絵本を紹介したいと思います。

『バスが来ましたよ』 由美村嬉々（アリス館）

病気で全盲になった男性が、小学生に助けられながら続けたバス通勤。「バスが来ましたよ」その声はやがて次々と受けつがれていきます。小さなひとこと、小さな手。それは多くの人の心をつき動かしました。小さな親切のリレーの物語です。

『あんなに あんなに』 ヨシタケシンスケ（ポプラ社）

大人気の絵本作家。ヨシタケシンスケさんによる、こどもと昔こどもだったすべての人に届けたい一冊です。親子で一緒に読むと、ちょっぴり目がしらが熱くなってしまいうやさしい絵本です。

『ぼくのつばさ』 トム・パーシヴァル（評論社）

ノーマンは、ごくふつうの男の子。ある日、つばさはえてきました。パパにもママにも言えずになやむノーマン。でも、ほかの人と違うことをかくす日常はつらいもの。自分のあるがままを生きるすばらしさを教えてくれる絵本です。